

インターバンクの声（2014 年 3 月 25 日）

昨日、欧州市場が開き始める頃から活発に動き出したのがユーロ・ドル相場であった。フランスの製造業、非製造業 PMI がいずれも高水準となったことを受けて 30 ポイントほど上昇したのも束の間で、30 分後に発表されたドイツの PMI が低下したため、フランスの PMI 後の上げ幅を全て解消する下げが待っていた。その後ニューヨーク市場の昼過ぎまでは静かな展開が続いたものの、ウクライナがクリミア半島に駐留するウクライナ軍の撤退を発表したことで、今度は 100 ポイント近い反発があった。中国経済に関するヘッドライン次第では大きな反応を見せる豪ドルの動きも魅力的だが、足元で一番スリリングな展開を見せているのがユーロ・ドルだ。ウクライナ軍のクリミア半島からの撤退により、取り敢えずはこの地域の戦争状態突入は避けられそうだが、ロシアと西側諸国との対立は簡単に終息するわけではない。アジア時間では再び動意の薄いユーロ・ドルの取引になりそうで、ここは小刻みな変化を追って円や豪ドル取引に集中するしかなさそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。